

令和 5 年度(2023 年度)
第 1 回熊本博物館協議会

令和 5 年(2023 年)10 月 6 日(金)午前 10 時
熊本博物館

次 第

1 開会

2 主催者挨拶

3 会長挨拶

4 議事

(1)令和 4 年度(2022 年度)事業報告について

(2)令和 4 年度(2022 年度)熊本博物館運営点検評価報告について

5 その他

6 閉会

議事（1）令和４年度事業報告について

【熊本博物館関係】

1	展示	・・・・・・・・・・ P 1
2	プラネタリウム関係	・・・・・・・・・・ P 3
3	教育・普及活動	・・・・・・・・・・ P 6
4	行事・イベント	・・・・・・・・・・ P13
5	資料の収集・保存	・・・・・・・・・・ P17
6	広報活動・刊行物	・・・・・・・・・・ P18
7	入館者状況	・・・・・・・・・・ P19
	【塚原歴史民俗資料館関係】	・・・・・・・・・・ P20

〈熊本博物館関係〉

1 展示

(1) 特別展（館報 P15～）

【事業名】夏季特別展 世界の大翼竜展

期 間 7 月 16 日（土）～9 月 4 日（日）

場 所 特別展示室 1・2・3

内 容 熊本博物館創立 70 周年・KKT くまもと県民テレビ開局 40 周年記念特別展。
地球史上で最初に大空を自由に飛翔した脊椎動物「翼竜」をテーマに、その進化や生態など、最新の化石研究によって明らかになってきた多種多様な翼竜たちの真の姿を紹介。

成 果 来場者 32,795 人

備 考 関連イベントとして、講演会「翼竜という生きもの」と親子で作る翼竜グライダー（2 回）を実施。 ※展示図録を作成（館報 P53）

(2) 企画展（館報 P15～）

【事業名】収蔵品展「くまはくコレクション 肥後のやきもの」

期 間 令和 4 年 3 月 12 日（土）～5 月 8 日（日）

場 所 特別展示室 1・2

内 容 創立 70 周年となる当館がこれまで収蔵してきた陶磁器類を展示。

成 果 来場者 1,197 人（3 月 31 日までの来場者数）

備 考 2 年にわたる収蔵陶磁器調査の成果をもとに、「収蔵品展」として公開した美術工芸分野初めての企画。陶磁器ファンの来場者も多く、収蔵品を周知する良い機会となった。 ※リーフレットを作成（館報 P53）

【事業名】「あつまれ！地域の宝ものー熊本市域にのこる“文化財”のミリオクー」

期 間 10 月 15 日（土）～11 月 20 日（日）

場 所 特別展示室 1・2・3

内 容 熊本市域に所在する指定文化財を一堂に紹介。

成 果 来場者 9,398 人

備 考 関連イベントとして、展示解説（ミュージアムトーク）や講演会を実施。

【事業名】熊本城と明治維新 ―藩から県へ、そのとき城は？―

期 間 2 月 11 日（土・祝）～3 月 19 日（日）

場 所 特別展示室 1・2

内 容 明治維新という巨大な政治変革が熊本／熊本城にもたらした変化について、様々な初公開資料を含む古文書から読み解く企画展。

成 果 来場者 7,163 人

備 考 熊本大学文学部の三澤純氏、永青文庫研究センターの今村直樹氏と協力のうえ企画展を計画・実施。アンケートでの来館者満足度も上々で、当該テーマ（幕末維新期）は一般市民の興味関心を広く集めていることが再確認された。

【事業名】立田山 ―身近な自然の魅力―

期 間 令和 4 年（2022 年）3 月 18 日（土）～5 月 14 日（日）

場 所 特別展示室 3

内 容 立田山の成り立ちや変遷、生息している動植物について紹介。

成 果 来場者 2,764 人（3/18～3/31）

備 考 関連イベントとして、展示解説（ミュージアムトーク）、観察会及び講演会を実施。

（3）共催展（館報 P16～）

【事業名】くまもと市 遺跡発掘速報展 2022

期 間 12 月 10 日（土）～令和 5 年 2 月 19 日（日）

場 所 特別展示室 3

主 催 熊本市文化財課、熊本博物館

内 容 近年の発掘調査及び整理作業を行った遺跡の調査成果について出土遺物や写真パネルの展示をおこなった。常設展示している赤漆塗木製剣柄が出土した上代町遺跡群からは保存処理が終了した弥生時代の木製品を多数展示。

成 果 来場者 9,971 人

備 考 関連イベントとして、ギャラリートークを実施。

（4）その他の展示（館報 P17）

【事業名】くまはく SL69665 号機 100 歳記念写真パネル展―

期 間 令和 5 年 1 月 25 日（水）～ 5 月 14 日（日）

場 所 2 階ロビー（壁面）

主 催 熊本博物館

内 容 屋外展示場の SL69665 号機（1923 年製造）が令和 5 年（2023 年）1 月に満 100 歳となったのを記念した写真パネル展。①現役時代の勇姿、②当館建設予定地への移設状況、③屋外展示場での記念写真など、3 部構成で展示。

成 果 来場者 21,983 人

備 考 3 部構成の中の「①現役時代の勇姿、③屋外展示場での記念写真」については当館の HP や Twitter にて写真提供を呼びかけ、当館が所蔵していない貴重な写真を交えた展示会になるよう工夫し、写真提供者・来場観覧者との一体感を高めることができるよう配慮した。

2 プラネタリウム（館報 P18～22）

（１）各種投映

【事業名】一般投映番組

投映全体の前半は星空解説、後半はオート番組による２部構成で投映。星空解説部分は、投映スタッフによる生解説で投映当夜の星空を紹介。

（ア）「HAYABUSA2-REBORN-」

小惑星リュウグウでの探査を成功させ、地球にカプセルを届けた「はやぶさ 2」の壮大な旅の軌跡を紹介。

投映期間 令和 4 年 2 月 12 日（土）～4 月 22 日（金）

（イ）「ぬすまれた月」

和田誠氏の絵本「ぬすまれた月」を原作にした、月の不思議と魅力を優しく紹介した番組。熊本市現代美術館「和田誠展」との連携・協働による投映。

投映期間 4 月 23 日（土）～6 月 19 日（日）

（ウ）「フライングモンスター」

はるか昔、恐竜たちの時代に大空を支配した「翼竜」について紹介した番組。夏季特別展「世界の大翼竜展」と関連付けた投映。

投映期間 7 月 16 日（土）～9 月 4 日（日）

（エ）「まだ見ぬ宇宙へ」

天文衛星ガイアの観測データに基づいた、美しい銀河や星雲・星団の映像と共に壮大な宇宙旅行を楽しむことができる内容。

投映期間 9 月 9 日（金）～12 月 2 日（金）

（オ）「VOYAGER」

NASA が打ち上げた 2 機の無人惑星探査機ボイジャー 1 号・2 号のミッションと成果、そしてこれからありえるかもしれない未来について紹介。

投映期間 12 月 3 日（土）～令和 5 年 3 月 5 日（日）

（カ）「470 億光年の、その先へ—宇宙のはてを探す旅—」

カノンの調べと共に星空の果てを探して旅をする、宇宙の不思議を伝えるサイエン・ファンタジー作品。

投映期間 令和 5 年 3 月 8 日（水）～7 月 14 日（金）

※投映期間は休館日・メンテ日を除く

【事業名】ファミリーアワー

幼児から小学校低学年やその家族を対象に、プラネタリウムに親しんでもらう最初の機会として毎週土曜・日曜、祝日及び学校長期休業中に実施。

全体の投映時間は 45 分間（平常時は歌や掛け声を交え、わくわく感を高めるなどの工夫）。また、番組投映の前には当夜の星空を紹介。

(ア)「あひるのガックン おほしさまのせかいへ」

あひるの子ども、ガックンがお星さまの世界での妖精や黄道 12 星座たちとの出会いを通して、思いやりの気持ちを育む物語。

放映期間 4 月 23 日（土）～令和 5 年 3 月 5 日（日）

(イ)「テンテンのさがしもの」

パンダのテンテンたちが、友人のために光る赤いものを探して宇宙に飛び立つ話を通して、惑星や月、十二星座など、身近な天体について紹介する番組。

放映期間 令和 5 年 3 月 8 日（水）～

【事業名】学習放映

小中学校の理科・天体学習の理解を深めるため、学校団体向けの放映を行うもの。

当夜の星空を中心に、星座、惑星、太陽・月・星の動きなどを生解説し、学年に合わせたテーマ番組の放映を実施。また、熊本市立小学校は 5 年生時に集団宿泊教室を行うことから、目的地に向かう前に当館を訪れてもらい、その際にプラネタリウム放映を行っている。宿泊教室以外の「学校行事等」での利用にも応じている。

放映回数総数 49 回。

【事業名】幼児団体向け放映

幼稚園や保育園などの幼児団体向けの放映を行うもの。放映時間は 45 分間で、星空の紹介（生解説）と幼児向け番組の 2 部構成。放映期間と内容は、前述のファミリーアワーと同様。

【事業名】字幕付きプラネタリウム

プラネタリウムの放映は映像と音声で構成されており、聴覚に障がいのある人にとっては、通常の放映では内容が十分に伝わらない面がある。そこで、聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施。字幕については、熊本県聴覚障害者情報提供センターにご協力をいただいた。

(ア) 第 46 回字幕付きプラネタリウム

放映番組「ぬすまれた月」

日 時 5 月 21 日（土）①9:40～10:35、②12:40～13:35

成 果 観覧者 45 人

(イ) 第 47 回字幕付きプラネタリウム

放映番組「フライングモンスター」

日 時 8 月 11 日（木・祝）①9:40～10:35、②14:10 分～15:05

成 果 観覧者 220 人

(ウ) 第 48 回字幕付きプラネタリウム

放映番組「まだ見ぬ宇宙へ」

日 時 10 月 8 日（土）①12:40～13:35、②14:10 分～15:05

成 果 観覧者 51 人

(エ) 第 49 回字幕付きプラネタリウム

投映番組「VOYAGER」

日 時 令和 5 年 1 月 29 日 (土)

①12:40~13:35、②14:10~15:05

成 果 観覧者 95 人

【事業名】特別投映

(ア) 月の世界へようこそ

長年月面の撮影を続けてきたプラネタリウムスタッフ（解説員）による月に特化した特別なプログラム。

日 時 6 月 18 日 (土) 15 : 40~16 : 50

成 果 観覧者 110 人

(イ) 熟睡プラ寝たりウム

全国一斉「熟睡プラ寝たりウム」の開催に合わせ、気持ちよく眠っていただくためのプログラム投映。

日 時 11 月 23 日 (水・祝) ①11:10~12:00、②15:40~16:50

成 果 観覧者 ①130 人 ②130 人

(ウ) クリスマスプラネタリウムコンサート

プラネタリウムの美しい星空と共に、宇宙やクリスマスにちなんだ楽曲の演奏をお楽しみいただく内容。

日 時 12 月 24 日 (土) 15:40~16:40

演 奏 熊本市消防音楽隊

成 果 観覧者 130 人

(エ) ハルキウ・プラネタリウム特別投映

ウクライナ・ハルキウプラネタリウムの解説員をお招きし、ウクライナの文化やハルキウプラネタリウムの歴史や現状についてお話いただくとともに、「ウクライナから見た星空」の解説を実施。

日 時 令和 5 年 2 月 23 日 (木・祝) 15:00~16:15

成 果 観覧者 130 人

(2) 天文講演会

【事業名】「究極の電波望遠鏡で迫る 宇宙の謎」

天の川銀河のブラックホールの電波写真や現在建設中である史上最大の電波望遠鏡についての講演会。

日 時 7 月 2 日 (土) 15:00~16:30

場 所 プラネタリウム

成 果 参加者 60 人

3 教育・普及活動

(1) 通年講座・教室（館報 P23～）

【事業名】考古学講座（全 6 回）

目 的 出土資料を観察し、その製作技術のすばらしさについて考える。

内 容 遺跡から出土するいろいろな「もの」について、その成り立ちから製作技術のすばらしさに触れてもらうことを目的とした通年講座。

成 果 参加者数 101 人（年間）

備 考 講座は座学中心。館蔵品の解説と、関連する資料の紹介を行い、土器などの出土資料や、屋外展示の石棺を実見して制作の痕跡を観察。市民の方々に興味を持っていただける内容で、今後も継続して行きたい。

【事業名】地質学講座（全 5 回）

目 的 化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発

内 容 当館の地質資料や熊本の大地に関する通年講座。小学校高学年から一般成人を対象に隔月で開催。

成 果 参加者数 136 人（年間）

備 考 熊本市外からの受講生 20 人（年間）

【事業名】動物学講座（全 6 回）

目 的 生物多様性について学び、動物としてのヒトがいかに自然と関わるべきか考える。

内 容 野外観察会や室内学習で、身近な動物の生態や形態などについて学ぶ。小学 4 年生以上を対象とした通年講座。

成 果 参加者数 86 人（年間のべ人数）

備 考 同じメンバーを対象に通年で実施する講座なので、単発のイベントよりも学習効果が高い。ただ、現在は担当者の他の業務量との兼ね合いから、準備に時間のかかる室内学習の回数を減らして実施。（リニューアル前：室内学習 6 回、野外観察会 6 回の計 12 回）

【事業名】植物学講座（全 5 回）

目 的 身近な植物に親しみ、興味・関心を高め、地域の自然や生物多様性について考える。

内 容 野外観察会（6・10 月）や室内学習（4・8・12 月）を通して、身近な植物に親しみ、興味・関心を高めることを目的とした通年講座。

成 果 参加者数 82 人（年間）

備 考 毎年実施している講座であり、継続して参加している方も多い。そのため年々参加者の理解や知識が深まっている様子を感じている。また、植物の話題を通して、参加者同士で情報交換などが行われている様子も見受けられる。

【事業名】 保存科学講座（全 5 回）※1 回中止

目 的 多種多様な文化財を保存する方法や製作方法について興味関心を高める。

内 容 様々な劣化要因から資料を守る博物館の取組や、資料の修復・保存処理・科学分析などに関して学ぶ通年講座。

成 果 参加者数 48 人（年間）

備 考 少数人数で前半を座学、後半を実習形式として行ったため、内容の濃いものとなった。また、博物館に展示されている資料が、いかに守られているかを知ってもらう良い機会にもなっている。今後も内容を変えながら実施し、展示資料を違った側面から見てもらえるように行っていきたい。

【事業名】 くまはくのゆるゆる美術部（全 3 回）※1 回中止

目 的 熊本市内の「美術」について調べたり学んだりする通年講座。

内 容 初回はパワーポイントおよび実物にて、熊本博物館美術工芸分野の収蔵品を紹介。第 2 回目は企画展「あつまれ！地域の宝もの」を見学した。第 3 回目は都合により中止。

成 果 参加者数 23 人（年間）

備 考 熊本博物館に「美術品」があることが知られていないため、周知するきっかけになった。また、企画展見学では、熊本市域に所在する文化財を改めて周知することができた。

【事業名】 子ども科学・ものづくり教室（館報 P24～）

目 的 熊本博物館は開館以来、自然・文化・歴史資料などの保存・継承と、それらの価値や魅力を発信する拠点としての役割を果たしてきた。これに加え、現在は多様化する人々のニーズに応じた学習活動の支援をはじめ、多面的な機能を発揮することが求められるようになっている。そのような中、当館では青少年が楽しく活動しながら自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化に関する内容も一部含む）を体験的に学ぶことのできる機会を提供する目的で、平成 11 年度より「子ども科学・ものづくり教室」を開催している。

内 容 小中学生を主な対象に、色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした内容のほか、葉脈標本作り、アンモナイトのレプリカ作り、銅鏡のレプリカ作りなど、植物、地質、考古、保存科学分野に関する内容も取り入れ、内容の充実を図った。また、NP0 団体（日本アマチュア無線連盟熊本県支部）や崇城大学との共催イベントも行った。

※感染症拡大防止措置に係る事業規模縮小等のため、自由参加型の教室は行わず、全て事前申込・定員制の教室とした。

※定員制教室の例：コイルモーター作り、紙パックカメラ作り 他

期 間 通年

成 果 参加者数 1,040 人（令和 3 年度：898 人）

備考 いまだコロナ禍の影響はあるものの、参加希望者（応募者）は多く、教室開催のニーズは高い。年齢差・個人差に応じた実技面での指導や運営スタッフの補充など、人材面での協力体制構築を図りながら、今後も大学や高専、民間団体とも連携した事業展開により、教室の魅力を高めていく。

（２）学校教育支援事業（館報 P32～）

【事業名】 ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

目的 博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。

内容 学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣する（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。

所管する資料や担当者の専門知識・技能を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める（可能な範囲で派遣中）。

期間 年間を通して要請に応じて実施。

成果 延べ 19 校（必由館高校、湖東中、錦ヶ丘中、出水小、西原小、山ノ内小など）で 22 時間分の授業対応をした（Zoom 遠隔解説等：7 時間を含む）。

備考 派遣授業で用いるプログラム集（冊子：第 3 版）を令和 2 年度中に改訂し（HP でも閲覧可）、その内容をベースにカスタマイズして実践中。他業務との兼ね合いで希望に添えない場面もあるが、できるだけ早めにご相談いただくことで調整に努めている。また、Zoom 等の効果的な活用場面を探りつつ遠隔授業・遠隔解説にも引き続き取り組んでいく。

【事業名】 館内学習支援活動（お迎え事業）

目的 「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時におけるオリエンテーションや講堂等での座学において館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで、館内見学（学習）への興味・関心を高める。

内容 当館の講堂及び実験・工作室を活用し、担当の学芸員が所管する展示物の魅力や価値を補足資料等も交えながら紹介することにより、館内見学に対する期待感を高めるとともに、見学・学習の視点を与える。学校団体予約時に館内学習プログラム集の中から 1～2 題材（1 題材：15～20 分間程度）を選んでもらい要請に応じて実施している。

期間 通年

成果 延べ 40 校（碩台小、山東小、杉上小、花園小、春竹小など）で、66 プログラム以上を実施（前年度は、全 31 校・延べ 49 プログラム）。そのほか、2 名の教育普及支援員による短時間の展示解説等も多数行った。

備考 館内学習については、夏の教職員研修講座、校長・園長会等で事業内容について繰り返し触れながら広報・周知に努めている。今後も実践を通して、プログ

ラム内容の改善を図ったり教材・教具の工夫を行ったりしてより魅力的な館内学習を提供・展開できるよう取り組んでいく。

【事業名】 熊本博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）

- 目 的 小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3年生または4年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。
- 内 容 年度期間中において、事業該当校（12校）の中の希望校を対象として実施。上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行。プラネタリウム学習投映、館内学習プログラム体験（1～2本）、館内展示物見学などを行っている。
- 期 間 7月中旬～3月上旬
- 成 果 事業対象校となる全ての小学校（12校）が参加した。参加校の引率者（34人）と参加児童（624人）に対してアンケート調査を行った結果、プラネタリウム視聴・館内学習・展示物見学等、いずれも高評価で、次年度の参加を希望する感想も多かった。
- 備 考 令和元年度から市内遠隔地の学校（12校）を対象として行ってきた事業であるが、次年度からは広く市内全域の小中学校に参加希望を募り、予算の範囲内で抽選によって10校余りを招待する事業に改善する。より多くの学校に対して館内での学習支援活動ができるようにしていきたい。

【事業名】 K E W（熊本エデュケーションウィーク）

- 目 的 令和2年度から熊本市が主体となって始めた取組で、熊本博物館は令和3年度より参画。当館が行っている「博学連携事業」の一端を、学校関係者、社会教育関係者、児童・生徒・保護者、一般の方向けに周知し、さらなる連携促進の契機とする。
- 期 間 通年
- 内 容 令和3年度は館内での学習支援活動の様子、各学校に出向いて行うゲストティーチャー派遣授業の様子、それらと関連したZoomによる遠隔授業・遠隔解説、オンライン学習支援の取組等を紹介。令和4年度は教職員向け研修講座、学生を主な対象とした博物館実習、中学生・高校生対象のナイスライ事業・インターンシップなど、博学連携事業の中の「各種受入れ事業」について紹介。
- 成 果 上記に関する20分番組の動画を制作・配信することができた（YouTube：熊本エデュケーションウィーク）にて視聴可能。当館の博学連携事業の概略を対外的に紹介できるコンテンツが二つに増えた。
- 備 考 熊本市は2030年度までK E Wの取組を継続する予定であり、当館としても発信する内容の検討、持続可能な事業展開に不可欠な人材・時間・機材の確保等が

大きな課題である。令和 5 年度は「各種のイベント」について紹介予定。

(3) 講師派遣 (館報 P39)

【事業名】 学校 PTA 活動・社会教育施設開催講座等での活動支援

内 容 学校 PTA 活動や公民館等の社会教育施設で開催される行事や講座での講師を務め、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行う。

- ・ 信愛幼稚園「科学工作を楽しもう」 (7 月 21 日 : 39 人)
- ・ 教員のための博物館の日 in 山鹿 (8 月 4 日 : 15 人)
- ・ 城山幼稚園「実験ショー&科学工作」 (9 月 20 日 : 49 人)
- ・ 出水小 2 年 PTA「親子で楽しむ科学工作」 (10 月 2 日 : 108 人)
- ・ 画図小学校家庭教育学級「江津湖の生きもの観察」 (8 月 2 日 : 20 人)
- ・ 出水小 PTA「親子で楽しむ科学工作」 (10 月 2 日 : 108 人)
- ・ 水前寺江津湖公園サービスセンター「春の七草を探そう」(1 月 14 日 : 13 人)
- ・ 飽田公民館「実験ショー&科学工作」 (1 月 28 日 : 66 人)
- ・ その他 (全 17 団体)
- ・ 熊本県高等学校文化連盟図書専門部「紙資料の劣化と保存」
(10 月 27 日 : 108 人)
- ・ 熊本県博物館ネットワークセンター「IPM でみえること」
(12 月 6 日 : 21 人)

期 間 4 月～2 月

成 果 参加者総数 775 人

備 考 館外にて、学芸班職員の専門分野に関する講座・教室等の支援を行った。昨年度に比べて要請件数は変わらないが、参加者数は増加した。今後に対応可能な範囲で博学連携・博社連携活動への協力を継続していく。

(4) 教職員研修 (館報 P40)

【事業名】 教職員向け研修講座～館内学習プログラム解説編～

目 的 学校教育支援事業（お迎え事業）で活用する「館内学習プログラム集（全 54 題材）」について、その冊子の中で紹介している館内展示物等を幾つかピックアップし、その価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに直接伝える機会とする。

内 容 午前中に人文系プログラム、午後に自然系プログラムを紹介した。講堂及び実験・工作室での座学や教材・教具を使った実習、展示室に移動しての解説・補足説明を行ったほか、質問にも応じた。

期 日 8 月 22 日（月）①9:00～11:45（人文系解説）、②13:15～16:00（自然系解説）

成 果 午前・午後合わせての参加者：12 人。学習プログラム及び活用資料・展示資料の魅力や価値（の一端）を伝えることで、博物館を身近に感じていただいたものと思う。参加者からは好意的な感想が多く聞かれた。

備 考 コロナ禍の状況に鑑み、昨年度同様参加者を 10 人程度に制限して開催。より

多くの教職員に参加してもらえよう、新規プログラムの開発や内容の改善等に努めていく。

【事業名】熊本市小学校理科教育研究会巡検会 ※中止

- 目 的 熊本の野外で見られる地層や化石、生物を小学校での学校教育に役立てるため、熊本市小学校理科教育研究会の会員に向けた地質・動物担当学芸員による巡検会
- 内 容 上天草市の中生代白亜紀後期と新生代古第三紀の地層の観察方法と化石の見分け方、磯の生物の観察方法の現地指導
- 期 日 8 月 23 日（火）
- 成 果 中止
- 備 考 新型コロナウイルスの流行と、直前に発生した赤潮による磯の生物の大量死により開催を延期（令和 5 年度に開催）

【事業名】芳野小学校職員研修

- 目 的 博物館資料を見学し、河内・芳野地区の歴史や風土を学ぶ。
- 内 容 常設展示室で主に人文分野の資料解説を行い、特別展「世界の大翼竜展」、プラネタリウムの見学を行った。
- 期 日 7 月 27 日（水）9:00～12:10
- 成 果 参加者数 5 人
- 備 考 参加者全員が博物館は初めてということで、積極的に質問された。

（５）博物館実習等（館報 P40）

【事業名】博物館実習受入れ

- 目 的 学芸員資格取得を目指す大学生（含む：社会人）を受け入れ、様々な博物館活動に関する実習を行った。
- 内 容 実習期間 8 月 24 日～8 月 29 日（6 日間）
- ・ 1 日目 オリエンテーション、館内見学、管理事務・設備概要
 - ・ 2 日目～ 6 日目午前
（自然系）動物・植物・地質・天文・保存科学実習、ミュージアムカフェ、プラネタリウム対応、博学連携概要、課題製作
 - （人文系）考古・歴史・美術工芸・民俗・保存科学実習、撮影実習、プラネタリウム対応、博学連携概要、課題製作
 - ・ 6 日目午後 展示課題発表・まとめ
- 受け入れ大学 熊本大学 12 名、崇城大学 1 名、山口大学 1 名、広島大学 1 名、京都府立大学 2 名、同志社女子大学 1 名、帯広畜産大学 1（計 19 名）
- 備 考 実習内容については、各分野の業務に近いことを体験してもらった。これに加えて実習生には展示体験として、展示資料の選定、準備、展示説明という一連

の流れを体験してもらった。次年度はさらに受け入れ側の当館も内容をブラッシュアップし、より充実度の高い実習を目指したい。

(6) 職場体験・インターンシップ (館報 P40)

目 的 社会体験学習（生涯教育、ライフスキル教育）の一環として熊本市内の中学校・高等学校が実施する「ナイス・トライ」、「インターンシップ」において、本館での学習を希望する生徒を受け入れ、様々な博物館活動に関する実習を行った。

【事業名】 職場体験（ナイス・トライ）

期 間 9 月 15 日～9 月 16 日（2 日間）

内 容 ・1 日目 オリエンテーション、館内見学、学芸員業務体験
・2 日目 学芸員業務体験、まとめ

学校名 湖東中学校

【事業名】 企業体験（インターンシップ）

期 間 7 月 5 日～7 月 7 日（3 日間）

内 容 ・1 日目 オリエンテーション、館内見学、総務・学芸員業務体験
・2 日目 学芸員業務体験
・3 日目 学芸員業務体験、まとめ

学校名 湧心館高等学校

備 考 実習内容は、各分野ごとに実際の業務に近いことを体験してもらい、満足度の高いものとなった。各生徒のお礼文には、本館での学習体験への満足感とこれからの社会人としての生き方を学ぶ基礎となったという感想が多かった。

(7) ホームページコンテンツ (館報 P40)

【事業名】 HP コンテンツ「博物館流 自然観察・科学工作のススメ」

内 容 新型コロナウイルス感染症の拡大防止（流行抑制）対策の一環として、人混みを避けながら家庭で手軽に実施できる「自然観察・科学工作」等の方法をホームページで発信し、イベント自粛・休校・休館期間中の学習支援を行った（学習意欲等の維持・向上に寄与する一方策として）。

令和 2 年（2020 年）3 月 2 日（月）より公開を始め、現在も継続している（適宜、更新中）。

期 間 通年

備 考 ウィズ・コロナに伴い、通常業務を優先することになったため定期的な更新が難しくなっている（昨年度の更新ペースは一カ月に 1 本程度）。しかしながら、このような取組は必要かつ有効な生涯学習支援・学校教育支援となり得るため、紹介する内容を再検討したり担当業務のスクラップ＆ビルドを進めたりしながら、

持続可能な情報発信ができるよう工夫していく。令和 5 年度中に当該ページのリメイクを行う予定。

(7) 天体観察会 (館報 P41)

【事業名】 星空観賞会

内 容 サクラマチクマモトや熊本県スポーツ振興事業団・ミズノグループ等との協働により、望遠鏡などを用いて星座や天体を観察する機会として「天体観察会」を実施。

期 間 通年

成 果 天候不順のため中止を余儀なくされることもあったが、全 9 回で総勢 1,190 人の参加があった。

4 行事・イベント

(1) 講演会等 (館報 P43)

【事業名】 特別展「世界の大翼竜展」講演会「翼竜という生きもの」

期 日 7 月 31 日 (日) 15:30~16:30

会 場 プラネタリウム

講 師 大橋 智之 氏 (北九州市立自然史・歴史博物館学芸員)

内 容 飛行に適応した翼竜の体の構造や、様々な種類の翼竜の特徴と進化、最新の研究事例を解説。

成 果 55 人

備 考 申し込み時点では 100 人近くの申し込みがあったが、直前の新型コロナウイルス感染症拡大に伴ってキャンセルが相次ぎ、当日の参加は 55 人に留まった。

【事業名】 親子で作る翼竜グライダー

期 日 (ディモルフォドン) 8 月 2 日 (火) 10:00~11:30

(プテラノドン) 8 月 3 日 (水) 10:00~11:30

会 場 実験・工作室、三の丸公園

内 容 意匠「連」が製作した、よく飛ぶ翼竜グライダーキットを教材に、翼竜の体のつくりを解説し、グライダーを組み立てて三の丸公園にて長距離飛ばせるよう調整飛行を行った。

成 果 8 月 2 日 (火) 9 人、8 月 3 日 (水) 17 人 計 26 人

備 考 グライダーの工作や飛ばし方説明の補助のため、地質学講座の講座生がボランティアとして協力いただいた (計 12 人)。

(2) ゴールデンウィークイベント (館報 P43~44)

【事業名】 G・W！ は熊博へ

内 容 学芸班職員の専門性を活かし、博物館活動の多面的な魅力を伝える目的で GW 期間中に開催。「惑星石けん作り（天文）」「身近な生きもの観察会（動物）」「“やきもの”のなかの“いきもの”探し（美術）」など、全部で 9 種類のイベントを実施。

期 間 GW 期間中の土日・祝日

成 果 参加者総数 291 人

備 考 学芸班職員がイベントを企画・実施、総務企画班が広報を担当する形で総合博物館の魅力を館全体として発信するよい機会だと捉えている。今後も多くの来館者を迎えらるよう、運営面・内容面共に工夫・改善に努めていく。

（３）夏休みイベント（館報 P44～45）

内 容 学芸班職員の専門性を活かし、博物館活動の多面的な魅力を伝える目的で夏休み期間中に開催。「自由研究相談会（自然系分野）」「火起こし体験（考）」「草木染め体験（植物）」「マイ花押づくり（歴史）」など、全部で 9 種類のイベントを実施。

期 間 市内公立小中学校の夏季休業期間中（主に土日・祝日）

成 果 参加者総数 195 人

（４）くまはく誕生月間（館報 P45～46）

内 容 学芸班職員の専門性を活かし、博物館活動の多面的な魅力を伝える目的で 2 月の誕生月間中に開催。「野鳥観察（動物）」「博物館の裏側探検（民俗）」「和綴じ本づくり（保存科学）」など、全部で 12 種類のイベントを実施した（期間中に 3 回来館された方には三葉虫の化石をプレゼント）。

期 間 当館・誕生月間（2 月）の土日・祝日等

成 果 参加者総数 595 人

備 考 学芸班職員がイベントを企画・実施、総務企画班が広報を担当する形で総合博物館の魅力を館全体として発信するよい機会だと捉えている。今後も多くの来館者を迎えらるよう、運営面・内容面共に工夫・改善に努めていく。

【事業名】 くまはく誕生月間

内 容 当館の開館日（1952 年 2 月 4 日）にあわせ、2 月を「くまはく誕生月間」として多様なイベントを実施。創立 70 周年記念事業の第一弾として開催。

期間中には、3 回来館された方に三葉虫の化石を進呈。

期 間 2 月（土日・祝日）

成 果 イベント参加者 合計 595 人

備 考 学芸班職員がイベントを企画・実施、総務企画班が広報を担当する形で総合博

物館の魅力を館全体として発信するよい機会だと捉えている。今後も多くの来館者を迎えらるよう、運営面・内容面共に工夫・改善に努めていく。

(5) サタデーナイトミュージアム (館報 P47)

【事業名】開館時間延長イベント「サタデーナイトミュージアム」

夏季の熊本城開園時間延長期間および秋のお城まつり開催期間中に周辺施設と連携し、当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝えるため開館時刻を 21 時まで延長し、イベント等を実施した。

(ア) 夏季

期 間 7 月 30 日 (土)、8 月 6 日 (土) 17:00~20:00 (入場 19:30 迄)

内 容 特別展示室において、「世界の大翼竜展」の展示解説 (ミュージアムトーク) や、ナイトプラネタリウムとして「フライングモンスター」の投映を行った。

成 果 入場者 7 月 30 日 (土): 1,045 人 (17:00 以降入場者 44 人)

8 月 6 日 (土): 1,002 人 (17:00 以降入場者 105 人)

(イ) 秋季

期 間 11 月 19 日 (土)、11 月 26 日 (土)、12 月 3 日 (土)

17:00~20:00 (入場 19:30 迄)

内 容 企画展「あつまれ! 地域の宝もの」の展示解説 (ミュージアムトーク) や、ナイトプラネタリウムとして「まだみぬ宇宙へ」の投映、体験型イベント (マジックリングを作ってみよう・スライムを作ろう・虹色のシートをのぞいてみよう・もみじワークショップ・銅鏡レプリカづくり) を行った。

成 果 入場者 11 月 19 日 (土): 408 人 (17:00 以降入場者 133 人)

11 月 26 日 (土): 532 人 (17:00 以降入場者 235 人)

12 月 03 日 (土): 449 人 (17:00 以降入場者 210 人)

(6) その他 (館報 P47~48)

【事業名】「地質の日」関連企画 阿蘇サイエンスカフェ

期 間 5 月 22 日 (日) 10:00~16:00

内 容 地質の日くまもとの関連イベントとして、旧立野小学校で開催されたサイエンスカフェにておゆまるを用いた化石の型どり体験を出品した。

参加者 54 人

【事業名】生物多様性の日イベント

期 間 5 月 21 日 (土)、22 日 (日) 10:10~10:40、14:20~14:50

内 容 2018 年より実施している生物多様性の日イベント (いきものフェアくまもと 2022)。生物多様性について学ぶ参加・体験型プログラムの 1 つとして観察会とガイドツアーを実施した。

場 所 熊本市動植物園

【事業名】 御船町恐竜博物館オンライン講演会「恐竜時代の巨人たち」リモート会場協力

日 時 8 月 27 日（土）10：00～12：00

内 容 御船町恐竜博物館主催で開催されたアメリカ・モンタナ州立大学附属ロッキー博物館の竜脚類の専門家によるオンライン講演会。当館はリモート会場の 1 つとして講演をリアルタイム放映し、参加した小学生らは積極的に質疑応答に参加していた。

主 催 御船町恐竜博物館

場 所 熊本博物館 講堂 ※モンタナ州からのオンライン講演

参加者 35 人（熊本博物館での聴講者数のみ）

【事業名】 古生物の「クリスマスツリーかざり」をつくろう！

日 時 12 月 11 日（日） ①13:30～ ②15:00～

場 所 実験・工作室

内 容 クリスマスに合わせ、お湯で軟化する樹脂を使ってアンモナイト型や三葉虫型のクリスマスツリーオーナメントを作る活動を実施。樹脂を冷ます待ち時間にはクリスマスにちなんだ古生物クイズを行った。

成 果 参加者 29 人（①17 名、②12 名）

【事業名】（中止）化石観察会

日 時 3 月 21 日（火・祝） 9:00～17:00

内 容 熊本県天草市龍ヶ岳町

※雨天のため中止

【事業名】 プラネタリウムコンサート in 健軍文化ホール

内 容 スクリーンに投影された星空や天体の映像と共に、プロによるヴァイオリンとピアノの演奏を楽しめるコンサートを実施。担当者は映像解説担当として演奏の合間に登場した天体の解説を行った

期 日 令和 5 年 1 月 28 日（土）14:00～16:00（場所：熊本市健軍文化ホール）

成 果 参加者総数 200 人

5 資料の収集・保存（館報 P56～）

（１）収蔵資料

資料点数 150,297 点（2023. 3. 31 現在）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
地質	20,097	20,112	20,172	20,182	20,233	20,846	20,968
動物	58,161	58,321	58,930	60,792	63,232	65,833	67,816
植物	16,721	16,742	16,766	16,865	16,897	16,964	17,048
理工	137	137	135	135	137	137	137
考古	10,217	10,217	10,224	10,224	10,224	10,230	10,226
歴史美工	15,049	15,175	18,138	18,469	18,773	17,121	17,401
民俗	13,135	13,319	13,558	13,561	13,823	14,449	16,701
総計	133,517	134,023	137,923	140,228	143,319	145,580	150,297

※上記は登録済みの点数であり、未整理・未登録の資料は含まない。

※各年度末における累計点数

（２）寄贈

日付	資料名	点数
5. 25	九曜紋付小袖	1
6. 23	大工道具・文書等	30
6. 24	昭和 20 年日記・アルバム等	5
7. 18	日露戦争時書簡、第六師団騎兵隊関連資料	78
7. 18	杉谷雪樵筆《杉谷行直像》ほか	3
11. 13	ブラジル産魚化石、メノウ、紫水晶	5
11. 22	ディモルフォドン、ニクトサウルス	2
12. 6	見台・什器	25
2. 13	薬箱、掛軸	2
2. 20	4 号自動式卓上電話機、600 型自動卓上電話機、プッシュホン	3

（３）資料修復

【事業名】歴史・美術工芸分野資料の修復（館報 P59）

目 的 収蔵品の調査研究、展示、長期的保存のため、手入れ、修理、高精細画像の撮影を行っている。

内 容 収蔵刀剣類について、手入れを年 4 回実施した（正海刀剣研磨処）。
刀剣類 8 件について写真撮影を行った（株式会社テレビせとうちクリエイト）。

生人形（頭部 1 点）を修復（浦仏刻所）。

- 成 果 刀剣を定期的に手入れすることによって資料の状態確認ができ、錆等の発生を早期発見、予防することができる。高精細画像の撮影によって、資料の現状確認ができるほか、肉眼では確認しづらい細部の状態を記録することができる。生人形は髪の毛や彩色など劣化しているものが多く、今後も継続的に修理を実施する必要がある。

6 広報活動・刊行物

【事業名】 SNS 等を活用した広報及び学習情報の発信

期 間 通年

内 容 （web コンテンツ）昨今の感染症の流行により、政府は国民に対し「新しい生活様式」を求めている。博物館運営においても大規模な集客イベントの実施が難しくなっている。従来のような集客が見込めない状況において、来館者数だけに頼らない新たな博物館の存在価値を創出するため、幅広い世代のコミュニケーションツールとして利用されている SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用し、積極的な広報や学習情報の発信を行う。

- 成 果 ・公式 YouTube チャンネル登録者数 520 人
 ・公式 Twitter フォロワー数 3,569 人
 ・公式 Instagram フォロワー数 570 人
 ・公式 facebook フォロワー数 251 人
 ・熊本市塚原歴史民俗資料館 公式 facebook フォロワー数 420 人

《参考》 ※令和 5 年(2023 年)7 月 31 日時点

- 備 考 今後も引き続き、館公式の「ホームページ」をはじめ、「Twitter」、「Instagram」、「Facebook」、「YouTube」「LINE」等をフルに活用し、様々な「世代」「地域」「嗜好」などに合わせた発信を行う。
- ・Youtube 収蔵品や展示品、企画展、講座・教室の情報等（動画）
 - ・Twitter リアルタイム性と情報拡散力の高い情報等（文字、画像）
 - ・Facebook オールラウンドな情報等（文字、画像）
 - ・Instagram ビジュアル性の高い画像等（文字、画像）

【事業名】 刊行物の発刊（館報 P53）

- 成 果 展示会発行物 特別展「世界の大翼竜展」展示図録
 展示会発行物 企画展「あつまれ！地域の宝もの」展示図録
 くまはくニュースレター 年 2 回発行
 熊本博物館ニュース 年 12 回発行

2021 年度報告「館報」
 熊本博物館常設展示ガイドブック
 館内学習プログラム集 第 2 版
 資料整理目録 4（歴史） 井手三郎関係資料
 美術工芸分野資料整理目録（1）陶磁器資料目録

7 入館者状況

（1）令和 4 年度博物館入場者

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
一般	2,486	3,117	2,824	7,523	11,666	3,930	2,517	3,218	2,242	2,021	3,522	3,233	48,299
高校生 大学生	223	210	224	336	787	294	191	218	255	177	233	315	3,463
小学生 中学校	898	1,039	761	3,870	7,156	2,611	3,291	3,370	1,113	622	1,701	1,098	27,530
就学前 乳幼児	374	499	2,149	3,309	3,272	1,493	460	505	371	408	712	395	13,947
合計	3,981	4,865	5,958	15,038	22,881	8,328	6,459	7,311	3,981	3,228	6,168	5,041	93,239

（2）令和 4 年度プラネタリウム観覧者

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
一般	1,082	1,403	1,691	3,256	5,312	1,498	1,190	1,436	982	995	1,172	1,047	21,064
高校生 大学生	87	148	116	177	298	177	139	134	210	129	135	225	1,975
中学生 以下	840	918	2,594	3,963	5,530	1,953	1,693	1,699	820	637	988	915	22,550
合計	2,009	2,469	4,401	7,396	11,140	3,628	3,022	3,269	2,012	1,761	2,295	2,187	45,589

※休館日における学習投映を含む

【塚原歴史民俗資料館関係】

（１）企画展（館報P133）

【事業名】2022【全国巡回展】～kid's 考古新聞コンクール

期 間 12月1日（木）～2月25日（日）（開催日数）22日

会 場 塚原歴史民俗資料館 特別展示室

内 容 令和4年度はkid's 考古学研究所主催の2022【全国巡回展】～kid's 考古新聞コンクールを共催展として実施した。同展示会は毎年開催されており、全国の考古学少年・少女のアイデアあふれる内容の作品が並んだ。すべて手書きであり、制作した子どもたちの特色があふれて面白い。

成 果 入場者数 129 名

備 考 開催時期及び機関が22日間と短かったため入館者は少なかった。入館数としては昨年度並みであった。

（２）教室・講座（館報P133～）

【事業名】古文書講座

期 間 通年（4月～2月）

会 場 塚原歴史民俗資料館研修室

内 容 受講年齢制限なしの通年講座。例年は月1回、第3日曜日に開催。10回開催。前年度に引き続き、熊本史学会会員の花岡興史氏に「熊本の史料に見る幕藩関係」というテーマで講義をしていただいた。

成 果 受講者数 251 人

備 考 複数年受講の方が多く、新規受講生も増えつつある。

【事業名】考古学講座

期 間 通年（4月～2月）

会 場 塚原歴史民俗資料館研修室

内 容 年齢制限なしの通年講座。当館及び熊本博物館の学芸員、熊本市文化財課員、近隣町村職員が講師となり開催した。原始から古代を中心に、各回テーマを設定して講義を行った。講師の都合により1回の休講を余儀なくされたが、全9回実施。

成 果 受講者数 200 人

備 考 年々新規の受講者が増えつつある状況である。

【事業名】学芸員と歩く野外博物館

期 日 4月4日（日）、10月23日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館及び館周辺

内 容 年齢制限なしの教室。春と秋に実施。植物及び考古担当学芸員が案内役となり、

塚原歴史民俗資料館の館内見学と館周辺に自生する野草や遺跡の観察を行った。

成 果 参加者 2 人

【事業名】土器づくり教室（春）

期 日 4 月 24 日（日）、5 月 7 日（土）

会 場 塚原歴史民俗資料館研修室・前庭

内 容 年齢制限なしの教室。縄文・弥生土器の製作技法である輪積法により制作した土器を雲南式土窯により焼成した。

成 果 参加者 30 人（応募総数 68 名）

【押し花缶バッチづくり教室】

期 日 5 月 29 日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 押し花にした野草や紅葉した落葉樹の葉っぱを使ってオリジナルの缶バッチを作成してもらった。

【事業名】藍染体験教室～藍の色は愛の色～①

期 日 6 月 26 日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 タデ藍の生葉を使って綿のハンカチを染めてもらった。

参加者 19 名（応募総数 89 名）

【事業名】夏だ!!わくわく古代体験教室

期 日 7 月 24 日（日）・31 日（日）・8 月 11 日（木）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 歴史や考古学の楽しさを伝えるために、小学生を対象に夏休みに毎年実施している教室である。本年度は、勾玉づくり、オリジナル埴輪づくり、藍染を行った。

【事業名】藍染体験教室～藍の色は愛の色～②

期 日 9 月 23 日（金）

会 場 塚原歴史民俗資料館研修室

内 容 令和 2 年度から実施しており、人気の教室である。綿のハンカチを藍タデの乾燥葉を使って染め上げた。

成 果 参加者 21 人（応募総数 59 名）

【事業名】学芸員と歩く野外博物館（秋）

期 日 10 月 23 日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館周辺

内 容 年齢制限なしの教室。春に実施した同教室の秋バージョン。
成 果 参加者 2人

【事業名】石器づくり教室

期 日 10月23日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 宇城市豊野町で採れる温石（蛇紋岩）を使って磨製石斧づくりを行った。各自がイメージする石斧を作成してもらった。

成 果 19人（応募総数28名）

【事業名】土器づくり教室（秋）

期 日 10月30日（日）、11月20日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 春と同じく、塚原歴史民俗資料館に収蔵している土器をモデルに、各自が思い思いの土器を作成した。春と同様に雲南式土窯で焼成した。

成 果 参加者 21人（応募総数38名）

【事業名】藍染体験教室～藍の色は愛の色～③

期 日 11月27日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館研修室

内 容 令和2年度から実施しており、人気の教室である。綿のハンカチを藍タデの乾燥葉を使って染め上げた。

成 果 参加者 25人（応募総数54名）

【事業名】古代織体験教室

期 日 12月11日（日）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 年齢制限なしの教室。原始機（地機）を使った機織り体験。小学生から高齢者まで参加。

成 果 参加者 12人（応募総数43名）

【事業名】オリジナル埴輪づくり教室

期 日 令和5年1月22日（日）2月18日（土）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 年齢制限なしの教室。古墳時代の埴輪づくりと同じ輪積法によるオリジナルの埴輪づくり。

成 果 参加者 11人

【事業名】土器のランプシェードを作ろう

期 間 令和 4 年 3 月 5 日（日）18 日（土）

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 今年度初めて実施した教室。粘土紐を筒状に積み上げ、様々の形の透かしを開けたものを乾燥させ、雲南式の土窯で焼き上げた。

成 果 参加者 23 人（応募総数 81 人）

（3）館外活動（館報 P136）

【事業名】山ノ内小学校自然科学クラブ 4～6 年生勾玉づくり体験

期 日 10 月 25 日（火）

内 容 体験教室として、勾玉づくりを指導した。

成 果 参加者 20 名

【事業名】熊本農業高校生活科 1 年生藍染体験

期 日 12 月 7 日（水）

内 容 タデ藍の乾燥葉を使った化学染め

成 果 40 名

（4）その他の活動

【事業名】熊本市教育相談室（フレンドリー）対応

期 日 10 月 21 日（金）

内 容 体験教室として、火起こしを指導。

成 果 参加者 25 人

4 入館者状況

令和 4 年度 熊本市塚原歴史民俗資料館入館者数

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一般	大人	79	105	91	115	82	60	109	133	63	77	118	78	1,110
	小人	6	10	0	23	14	2	5	5	2	2	8	2	79
団体	大人	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
	小人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		85	115	122	138	96	62	114	138	63	79	126	80	1,220

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
免除	大人	36	109	90	74	98	81	115	112	70	59	94	113	1,051
	幼児	13	14	5	19	3	12	13	14	1	0	20	18	132
	小・中学生	23	27	88	60	62	46	72	53	7	44	85	70	637
計		72	150	183	153	163	139	200	179	78	103	199	201	1,820

合 計	157	265	305	291	259	201	314	317	141	182	325	281	3,040
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

議事（2）令和４年度

熊本博物館運営点検評価報告について

目 次

I. 点検評価の概要

- (1) 運営の点検と評価の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 今回の運営の点検と評価について・・・・・・・・ 1

II. 運営状況の概要

- (1) 主な学芸活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 主な施設の運営状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

III. 熊本博物館の施策体系図・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

IV. 施策についての点検・評価

1 学芸活動

- (1) 調査・研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 教育・普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (4) 収集・保存活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (5) 情報収集・発信・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

2 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然火災への対策

- (1) 施設利用・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- (2) 来館者へのサービス、安全管理・・・・・・・・ 21
- (3) 火災、地震等の自然災害対策・・・・・・・・ 23

3 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化

- (1) 博物館活動への市民参画・協働・・・・・・・・ 24
- (2) 熊本城とその周辺関連施設と他の博物館との連携・・・・・・・・ 25

Ⅰ. 点検評価の概要

(1) 運営の点検と評価の趣旨

熊本博物館は昭和 27 年(1952 年)に熊本城内(本丸)に開館し、花畑町の勸業館時代を経て、昭和 53 年(1978 年)に現在の熊本城三の丸地区に、新築・移転しました。その後、平成 27 年(2015 年)7 月から改修工事を進め、平成 30 年(2018 年)12 月 1 日、5 年 5 カ月にわたる工期を経てリニューアルしました。

リニューアルオープンの際、熊本博物館の 4 つの理念である「広域情報型博物館」「市民開放型博物館」「郷土立脚型博物館」「人間密着型博物館」を踏まえ、これからの新たな博物館として、運営や活動の充実と向上を図っていく必要があると考えました。

そこで、当館では『熊本博物館リニューアル後の運営方針(平成 30 年 11 月 12 日)』を策定し、同年度の熊本博物館協議会にて提案・承認を受けました。

本年度も、前段『運営方針』の 5 章「運営の検証と評価」に基づき、令和 4 年度の「2 学芸活動」、「3 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理、火災・自然災害への対策」、及び「4 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化」について、本協議会に報告し、今後の運営の改善と充実を図るため意見を求めるものです。

(2) 令和 4 年度(2022 年度)の運営の点検と評価について

令和 4 年度(2022 年度)も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が収まらない状況下での運営となり、行事・イベント、講座・教室等は残念ながら人数制限をせざるを得ない状況でした。それでも、十分な感染症対策と運営面の工夫に努めながら、当初の年間計画をベースに、各種展示会をはじめ様々な事業を着実に実施してまいりました。通常期の館運営の状況ではありませんが、令和 4 年度(2022 年度)の実績を基に、点検と評価を行うことにしました。

【運営の点検期間】令和 4 年(2021 年)4 月 1 日～令和 4 年(2022 年)3 月 31 日

II. 運営状況の概要

(1) 主な学芸活動

企画展・特別展では、創立 70 周年となる当館がこれまでに収蔵してきた陶磁器類を展示する企画展「収蔵品展 くまはくコレクション 肥後のやきもの」を春に開催。

7 月からは当館の創立 70 周年、KKT くまもと県民テレビ開局 40 周年記念した特別展として、地球史上で最初に大空を自由に飛翔した脊椎動物「翼竜」をテーマに、その進化や生態など、多種多様な翼竜たちの真の姿を紹介した夏季特別展「世界の大翼竜展」を実施することができました。そのほか、「あつまれ！地域の宝もの－熊本市域に残る“文化財”のミリオクー－」、「熊本城と明治維新」、「立田山－身近な自然の魅力－」など、多彩な企画展を開催しました。

教育・普及活動では、多岐にわたる「学校教育支援事業」の中から、主にゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）や館内学習プログラム（お迎え事業）について、校長会や教職員向け研修講座でそれらの内容の紹介を行い、活用促進に努めました。

子ども科学・ものづくり教室は、実験・工作室や講堂を主会場として、科学実験・科学工作を中心に理工以外の関連分野の内容も取り入れ、ほかの教育機関・団体とも協働し、内容を充実させました。

情報発信では、収蔵品データベースの情報更新はもとより、家庭学習・自然観察に役立つような教育コンテンツを制作し、インターネットでの発信を継続しています。また、展示会や講演会・催しなどについても、当館ホームページ、市ホームページ、市政だより、各種 SNS 等を活用し、情報を提供しています。

このほか、ナイトミュージアムの開催、各種展示会や常設展示物とも連動させた講座・ミュージアムトークなどを行い、展示物の背景や魅力等に迫ることができるよう工夫しました。

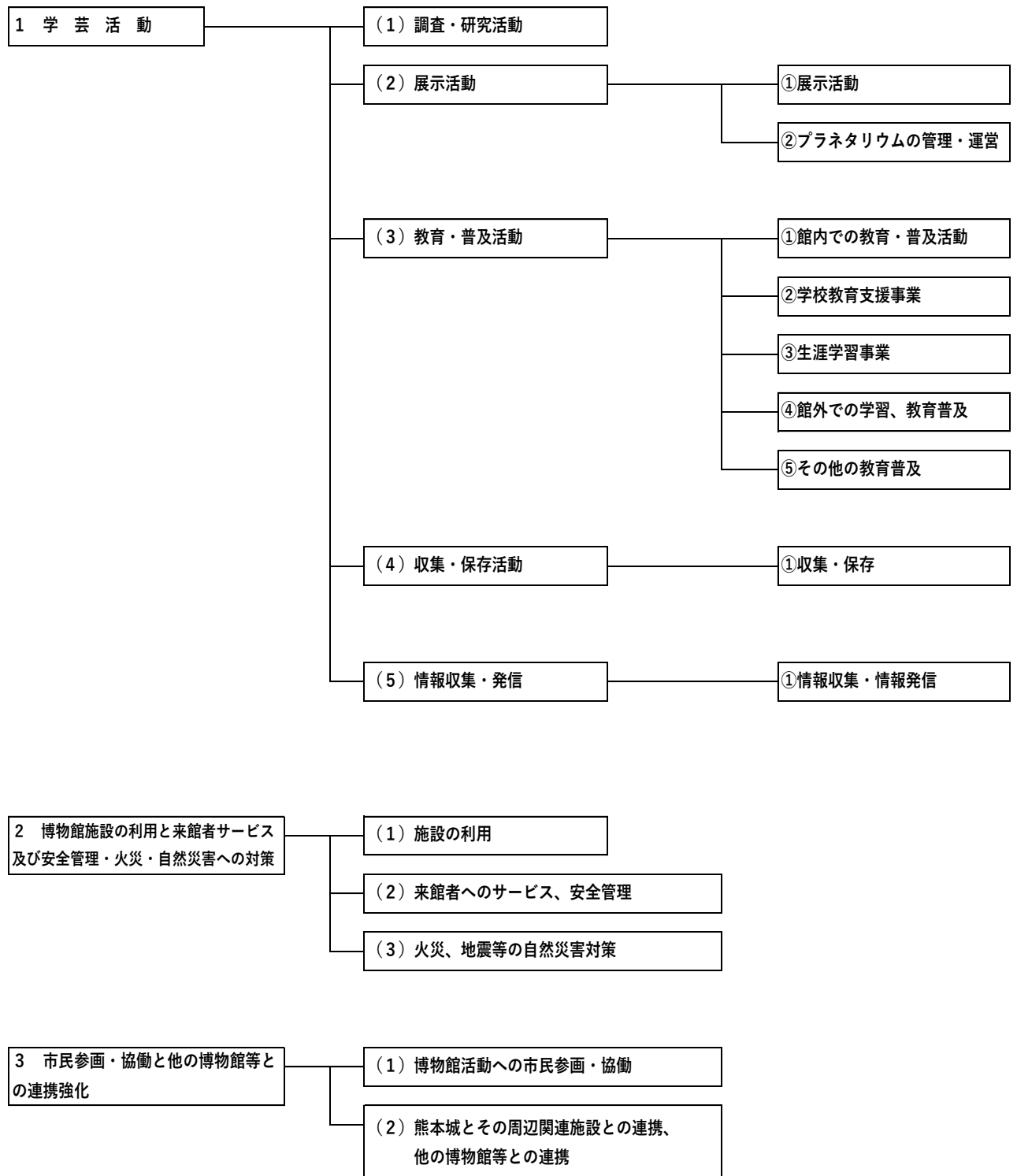
(2) 主な施設の運営状況

新型コロナウイルス感染症が収まらない中、様々な感染症対策を講じながら施設を運営してまいりました。また、三の丸地区における中核施設として、「熊本城」「熊本城ミュージアムわくわく座」「博物館」の 3 館共通券の販売や施設紹介を行うなど、観光案内機能を拡充しています。

火災・災害対策としては、消防計画に地震災害への対応も加え、来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方など館内で情報の共有化を図りました。

安全管理については、日常的な施設管理に加え、施設を安全かつ効率的に維持管理できるよう、事故の予防に努め、設備管理業務の受託者及び警備業務の受託者と連携を取り適切に運営を行っています。

III 熊本博物館の施策体系図



IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(1)	調査・研究活動
①	調査・研究活動

館報P63～

1 事業の目的・実績

目的	熊本博物館は「考古」「歴史」「民俗」「美術工芸」「地質」「動物」「植物」「天文」「理工」「保存科学」という分野で構成する総合博物館であり、これらの各分野における調査・研究を進め、博物館の活動の質を高めていく。
実績	【調査研究における論文等を本館の館報（2022年度報告）に掲載】 (1) 熊本県天草上島沖の有明海海底から新たに産出したステゴドン臼歯化石 2002年に採集・寄贈されたステゴドン科の臼歯化石 2 点について記載し、ミエゾウに同定したもの（地質担当学芸員共著） (2) 熊本博物館におけるIPMの事例報告 熊本博物館リニューアル以降の館内の環境調査の経過と対応策に係る事例を報告したもの（保存科学担当学芸員） (3) 《資料紹介》熊本博物館収蔵品 金箔瓦の科学的調査成果－資料点数の増加と今後の展望－ 当館に収蔵されている金箔瓦を科学分析(蛍光X線分析)にかけ、金箔及び瓦当部のとの接着剤の役割を果たす漆に関する成分分析をまとめたもの（保存科学担当・考古学担当学芸員共著） (4) 《資料紹介》熊本博物館収蔵品 樺番城窯跡出土品について 一資料の現状把握と今後の展望－（考古学担当学芸員共著） (5) 《資料紹介》 徳光屋烏犀円の看板と広告 現在も市内で営業している卸薬業徳光屋に関する収蔵資料、明治期の看板と広告を報告したもの（民俗担当学芸員） (6) 惣月行事記録抜書から見る近世熊本城下の盆後踊 近世熊本城下で行われていた盆後踊について、その出し物の内容について検討したもの（民俗担当学芸員） (7) 熊本市の和傘製造業について－当館収蔵資料から－ 当館収蔵の和傘関係資料を例に、熊本市内の和傘製造業について紹介した。明治・大正と県内有数の産地であり、肥後傘（熊本傘）としてブランド化を志向したが、結局は失敗したことなどを述べた。 （民俗担当学芸員）

2 工夫と成果・課題等 (※) 上記(2)(3)(5)の調査・研究に関して (例示)

取組において工夫した点	(1)について、本研究は前・地質担当学芸員の北村直司氏が当館在職中に戸隠地質化石博物館や三重県総合博物館などの標本と比較した調査が元となっており、2022年度に同氏が当館標本を再計測して、他地域の化石種の標本の計測データと照合して種同定に至った。(地質) ・館内民俗担当分野の資料や展示についての把握を行い、今後の課題とフローを作成した。前任、前前任者の作成した台帳との齟齬をきたさず、今後の整理・確認・登録・発信・活用が容易なように資料番号を作成する等、今後の収蔵・活用を見据えた上で作業を行った。(民俗)
取組による成果と次年度に残った課題	・(1)について、本研究の標本2点は有明海海底より漁師の網により引き上げられたものであり、産出層順や年代が不明である。(2003年に採集地点の潜水調査を行っているが、年代特定に至る情報は得られていない) 本研究では周辺地域の陸上に露出している地層の年代から類推しているものの、これらの標本の時代的な意義を知るためには海底の地質情報が必要である。(地質) ・整理と並行して、情報を収集し、それらを元に成果として展示、論文化を行った。発表・活用を今後も進めていくこと、不足する資料を収集して行くことなどが求められる。また、館内把握に努めたため館外での調査活動が低調だった。祭りや年中行事など把握すべき事柄は館外にも多い。館外活動と館内活動のバランスを取りながら、今後進めていきたい(民俗)
課題に対する今後の対応	・近年有明海で行われている海上ボーリング等の海底地質調査の情報収集(地質) ・調査用品、文献等の必需品、作業効率を上げる用具等を入手する。 ・外部協力者など単独での調査が難しい場合の連携の仕組みを構築する。 ・館内活動で不要な部分の精査を行い、館外活動へ迎える時間的猶予と仕組みを作成する。 ・館外活動への館内・館外の理解が進むよう成果を普及・研究活動によって市民に還元することを継続的に行っていく。(民俗)

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(2)	展示活動
①	企画展、特別展等の開催

館報P12～

1 事業の目的・実績

目的	常設展示や特別展、企画展等の開催を通し、市民や国内外からの来館者・観光客に対して魅力的な展覧・鑑賞の機会を提供する。
実績	【特別展・企画展・共催展等の開催】 ※入場者数は、開催期間中の博物館入場者数 (1) 夏季特別展「世界の大翼竜展」 期間 7月16日(土)～9月4日(日) 入場者数 32,795人 (2) 収蔵品展「くまはくコレクション 肥後のやきもの」 期間 令和4年3月12日(土)～5月8日(日) 入場者数 6,672人(令和4年4月1日～5月8日) (3) 企画展「あつまれ! 地域の宝もの -熊本市域にのこる”文化財”のミリョク-」 期間 令和4年10月15日(土)～11月20日(日) 入場者数 9,398人 ※各種展示会の開催期間中には、関連するシンポジウム・講演会・展示解説(ミュージアムトーク)・イベントなども行った。 (4) 常設展示一部変更(和傘・生人形・雨乞い絵巻・農具)(民俗)

2 工夫と成果・課題等 ※ (2) の「震災展」は前年度に報告済み

取組において工夫した点	(1)Googleフォームによるリアルタイムアンケート集約を行った結果、翼竜の分類に関する展示解説内容が上手く伝わっていない点が判明したため、補足のパネルを増設した。同様に学芸員による展示解説を実施した日とそうでない日とでは観覧者の満足度に差が見られたため、展示解説動画を撮影して担当学芸員不在中も注目ポイントなどの紹介映像を会場で見られるようにした。(地質) (2)「肥後のやきもの」展は、2020～21年度に実施した収蔵陶磁器の成果を展覧会として公開。博物館資料の調査・整理を行い、その存在をきちんと公開するという点で、「収蔵品展」は重要な取組み。若い人にも興味をもってもらえるよう広報物を少しポップにし、熊本のやきものについての入門的な展示とすることで、初心者でもとっつきやすい内容にした。(美術-令和3年度分で報告済) (3)「あつまれ！地域の宝もの」展は、指定文化財という枠組みが意外と市民に知られていないという現状をふまえ、改めて周知のきっかけとして開催した。図録では、熊本市域の指定文化財を項目ごとに掲載したほか、文化財行政担当者や各分野担当の学芸員のコラムなどを掲載し、文化財の保護や保存、調査研究の裏側を伝える内容とした。 (4) 調査成果を元にして作成する。その成果は論文として報告し、外部から検証が可能なようにする。(民俗)
取組による成果と次年度に残った課題	(1)多くの観覧者があり、アンケート結果も概ね好評であったが、ネガティブな意見には「展示点数が少ない」、「生体復元模型や動刻が少ない」という意見が目立った。翼竜というテーマに限定したために標本数は展示多くはなかったが、顕著に少ないという訳でもなかったように思われる。会場の来館者の動きをみると、人によっては部屋の展示標本を見渡して通過していくような動きも見られたため、造作壁を多用して一点一点ずつ注目してもらえるように展示すべきであったように思う。また、同様の古生物の展示を行う場合は復元模型製作も検討していきたい。特別展期間中の駐車場不足問題は当面の課題である。特に夏季特別展開催時期には近隣球場への高校野球やプロ野球の観戦客が多く、その度に駐車場満席によって来館できない問い合わせが殺到している。さらに今回は熊本城総合事務所との連携が上手く取れず、特別展の開催期間中に熊本博物館の最寄り駐車場である三の丸駐車場が工事車両・事務所設置により駐車台数が大幅に制限された状態であったことは本展にとって大きな痛手であった。(地質) (2)「収蔵品展」と銘打つことで、「熊本博物館にこんなものがあったのか!」という驚きの声が多数聞かれた。収蔵品をより周知するために「収蔵品展」を一度で終わらせず定期的の実施していく必要がある。(美術-令和3年度分で報告済)

	(3)指定文化財は指定されて終わりではなく、継続的な調査研究、永続的な保護・保存が必要である。また、指定数は今後も増加していくため、定期的に同様の企画をし、市民に周知していく必要がある。（美術） (4)常設展示コンセプトが固定されているため、どのように常設展を改良していくかを工夫すべき。と同時に常設展に縛られない企画展や特別展
課題に対する 今後の対応	(1)駐車場問題の解決には、最寄りの市電電停名改称や城域内の道順案内看板の増設による公共交通利用者の利便性向上のような短期的対策と、博物館利用者用の駐車場用地の確保、もしくは熊本城域外への移転などの長期的な対策が必要である。（地質） (2、3)歴史や美術に関する展示は、作品や資料の背景説明が必要な場合が多く、「子どもには難しい」と敬遠されがちな印象がある。まずは大人が興味を持ってくれるような工夫を模索していきたい。また、翻訳が無いことで外国人観光客を博物館に案内しにくいという声も聞く。出来るだけ解説の翻訳も増やし、インバウンドを取り込んでいきたい。（美術） (4)・企画展を計画する。 ・寄贈資料や整理の終えた資料を文脈に関係なく展示・紹介できるシステムを構築する。 ・研究公表を継続的に行っていく。 ・常設展を少しずつでも改良していく。（民俗）

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(2)	展示活動
②	プラネタリウムの管理・運営

館報P18～

1 事業の目的・実績

目的	県内最大のプラネタリウム施設を活用し、学習投映、一般投映等を通して、天文学についての情報発信と理解促進に努める。また、管理にあたっては解説技術の向上、内容の充実を図る。
実績	(1)一般投映及び幼児向けファミリーアワー投映と星空解説 【一般投映】 「HAYABUSA2-REBORN-」 投映期間 2月12日(土)～4月22日(金) 「ぬすまれた月」 投映期間 4月23日(土)～6月19日(日) 「フライングモンスター」 投映期間 7月16日(土)～9月4日(日) 「まだ見ぬ宇宙へ」 投映期間 9月9日(金)～12月2日(金) 【幼児・家族向けファミリーアワー】 「あひるのガックン おほしさまのせかいへ」 「テンテンのさがしもの」 (2)幼稚園・保育園・小中学校向け学習投映・解説(49回) (3)字幕付きプラネタリウム 聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施した。(8回) 参加者 411人 (4)特別投映 「月の世界へようこそ」 実施日 6月18日(土) 参加者 110人 「熟睡プラ寝たリウム」 実施日 11月23日(火・祝) 参加者 220人 「クリスマスプラネタリウムコンサート」 実施日 12月24日(土) 参加者 130人 「ハルキウ・プラネタリウム」 実施日 2月23日(木・祝) 参加者 130人 (5)天文講演会 「究極の電波望遠鏡で迫る 宇宙の謎」 実施日 7月2日(土) 参加者 60人

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・各種投映については、熊本市教育委員会指導課主催の「校長・園長会」や宿泊教室説明会等の機会を捉えて説明を行い、協力依頼・活用促進を図った。 ・広報活動も各種媒体(SNS等)を通じて積極的に行った。
取組による成果と次年度に残った課題	・天文分野に関する様々な情報を、幅広い世代の観覧者に対して継続的に提供していく必要がある。 ・プラネタリウム機器の経年劣化により、今後、機器の修理・交換が必要になることが予想される。
課題に対する今後の対応	・各種投映だけでなく、天文講演会や特別投映の実施など幅広い世代の観覧者に対して天文分野に関する様々な情報提供を行う。 ・新たな発見が相次ぐ天文学に関する知見を多くの人々に伝える魅力的な番組の導入や解説内容の充実を図っていく。 ・博学連携の一環として、プラネタリウムを活用した教職員向け研修講座等も行い、さらなる利用促進につなぐ。 ・プラネタリウムのプロジェクターについて、機器更新を実施する。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
①	教育・普及活動（館内での講座・講演会等）

館報P23～

1 事業の目的・実績

目的	各分野の調査・研究や展示活動とも連動しながら、その成果を講座・教室等で公開することにより生涯学習・学校教育・社会教育等の充実に寄与する。
実績	(1)通年講座（全31回予定→29回実施：詳細は、P.23） ※感染症対策のため回数減 延べ参加者総数 241人 動物学講座（6回）、植物学講座（5回）、地質学講座（5回）、考古学講座（6回）、保存科学講座（6回→5回）、くまはくのゆるゆる美術部（3回→2回）を館内外で実施。 (2)子ども科学・ものづくり教室（全23回：898人）前年度23回：693人 科学実験・科学工作を中心に、他分野関連の内容も複数回実施 崇城大学、電波適正利用推進員協議会等との連携イベントも開催 (3)天文講演会（1回：60人） 「究極の電波望遠鏡で迫る 宇宙の謎」実施日 7月2日（土）60人 (4)「くまはく誕生月間（2月）」でのイベント実施 学芸班による各種イベント・講座開催と総務企画班による広報活動 (5)その他のイベント等 夏休みの自由研究相談会、化石観察会、サタデーナイトミュージアム等

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・「くまはくのゆるゆる美術部」の目標は、熊本市域の「美術」について学芸員と受講者が一緒に調べていける部活のような活動にすること。現状はその下地を作っている段階。そもそも熊博にどのような美術品が収蔵されているか受講者は知らないため、まずそれらを紹介し、そこからあまり知られていない「美術」の話へ広げていくよう努めている。また、「ゆるゆる」というネーミングに安心して参加された方も多く、ハードルが高く感じられることの多い「美術」の間口を少しゆるやかに広げることができたのではないかなと思う。（美術）
取組による成果と次年度に残った課題	・熊博で初めての「美術」の講座ということで、収蔵品についても市域「美術」についても「知らなかった」という意見を多数聞くことができ、今後も継続して開催していきたい。現状、年3回をベースに開催予定だが（2022年度は実質2回）、今後は少し回数を増やすことも検討した。（美術）
課題に対する今後の対応	・講座の一環として受講者に資料整理なども実践してもらおうか検討したい。（美術）

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
②	学校教育支援事業（博学連携事業）

館報P32～

1 事業の目的・実績

目的	教材・学習材として価値のある資料及び学芸員・研究員の専門性（知識・技能等）を活用し、学校教育支援・館内外における学習活動支援に資する（主に社会科・理科・総合的な学習の時間等）。
実績	(1)ゲストティーチャー派遣授業【お出かけ事業】（27校：43単位時間） 派遣授業プログラム集をもとに、学校の要請に応じて学芸班職員を派遣し、学習・指導支援を行った。Zoomを活用した遠隔授業・遠隔解説にも試行的に取り組んだ。（前年度実績 15校：25単位時間） (2)館内学習支援活動【お迎え事業】（31校：49プログラム） 館内学習プログラム集をもとに、要請に応じて館内学習の支援を行った（前年度実績度は、26校：33プログラム）。 館内学習プログラム集を改訂し（第2版）、市内全小中学校に配布。 (3)スクールシャトルバス事業（全12校対象：内11校参加 562人） 植木ブロック、富合・城南ブロックの小学校中学年児童を主な対象として当館に招待し、新たな学びへの興味・関心を高める目的で実施。 （前年度実績は、9校 467人） (4)KEW（熊本エデュケーションウィーク）への参画 当館の学校教育支援事業のPRを兼ねて、(1)(2)の内容を中心に40分程度の動画にまとめ、YouTubeにて配信した（視聴回数：約280回）。 ※ 以下(5)～(7)の詳細は、「その他の教育普及活動」を参照のこと (5)教職員向け研修講座「館内学習プログラム解説」（延べ13人） (6)博物館実習（8月25日～30日） 受入総数 26人 (7)その他（教職員初任者研修、中学校理科教育研究会研修、 大学生の講義・館内見学受入れ等）

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・学校教育支援事業に関する事業体系一覧表を更新し、事業の両輪である「お出かけ事業」「お迎え事業」を中心とした各種事業内容の周知を図るため、校長・園長会等の機会を捉えて情報発信を行った。 ・令和3年度中に「館内学習プログラム集（お迎え事業用）」を改訂・配布し、さらなる利活用を呼び掛けた。 ・コロナ禍のため、講堂等での座学ができない場合は展示室での少人数解説を行うなど対応を工夫した。
取組による成果と次年度に残った課題	・学校教育支援事業の認知度が徐々に高まり、当該プログラムの活用数は「お出かけ・お迎え事業」とともに前年度よりも増加した（Zoomによる遠隔解説も複数回実施）。 ・アンケート集計結果によると、館内学習の満足度は体験した教師・児童ともに高評価であった。 ・プログラム利用校の増加に伴い、実施日時・場所等の調整が必要。
課題に対する今後の対応	・館内学習は講堂及び実験・工作室での座学を想定していたが、with コロナの時代にあっては開催が難しい場面が多い。特に、児童生徒数の多い学校団体においてはZoom等のICTを活用した学校での事前学習、展示室で少人数グループ毎の辻立ち解説等、可能な限り臨機応変に対応する。 ・学校団体のニーズや児童生徒の興味・関心を捉え、両プログラム集の定期改訂（採択教科書の改訂周期に準じて4年ごと）や実践を通じた内容更新を行い、さらなる利活用を促す。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
③	生涯学習事業（博社連携事業を含む）

館報P3

1 事業の目的・実績

目的	他の社会教育施設とも連携を図りながら、多様な学芸活動の成果を幅広い世代に還元し、生涯学習への興味・関心と参加意欲の向上に資する。
実績	(1)公民館の講座支援 中央公民館、飽田公民館等で動物学に関する講座、科学工作や実験ショー等の講師を務めた。 (2)自然観察会の実施 熊本県スポーツ振興事業団、家庭教育学級、水前寺江津湖公園等からの依頼を受け、県民運動公園や江津湖周辺の生きもの観察会の講師を務めた。 (3)その他（学校PTA「親子で楽しむ科学工作」、熊本県森林山村多面的機能発揮対策地域協議会「森林整備活動における危険な生物について」ほか） 参加者総数 775人

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・感染症の拡大が徐々に落ち着きを見せる中、講師派遣依頼数は前年度と変わりなかったものの、各講座の参加者は大きく増加した。依頼を受けた講座等は、それぞれ専門的な知識や技能が生かせる場であり、館内業務を調整しつつ可能な限り協力するようにした。 ・幅広い年齢層、多様な職種・立場の参加者（のなるべく全員）が興味・関心を抱き、楽しく理解できるよう内容を工夫した。
取組による成果と次年度に残った課題	・以前から連携していた社会教育施設だけでなく、分野によっては新たな団体とのつながりが生まれた。 ・今後、講師派遣依頼数の増加が見込まれる中、館内業務との兼ね合いでどの程度の連携事業が（内容的・回数的に）可能なのか、各分野・担当者ごとに見通しをもっておく必要がある。
課題に対する今後の対応	・館内における業務の充実を図る上で、職員が出向いて行う事業の拡充には限度がある。今後も引き続き、見通しを持った計画のもと、ICTの活用等を含めた効率的な連携の仕組みを検討・構築していく必要がある。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
④	館外での学習、教育普及（HP等での情報提供）

館報P40.P53~.P59

1 事業の目的・実績

目的	当館の事業展開に必要な資料等の収集を行うとともに、収蔵・保存・管理、収蔵品の補修等を実施し、博物館活動の充実と収蔵品の保存管理に努める。また、収蔵品のデータベース化を進め、一般公開も含め、広く収蔵資料の活用を図る。
実績	(1)収蔵品データベースの情報更新・ホームページ公開 地質、動物、植物、理工、考古、歴史、民俗：約15万点（登録分） （天文、美術工芸も含む） (2)ホームページコンテンツ「気軽にやってみよう！博物館流 自然観察・科学工作のススメ」更新・公開 感染症流行等の影響により、外出やイベントの自粛が求められるような状況下においても、家庭学習や身近な自然観察に役立つような教育コンテンツを制作しインターネットにて発信中（例：「子ども科学教室にて」「蒸気機関車～白寿のつぶやき」ほか）。 (3)刊行物の作成・公開 館報（調査・研究記事含む）、熊本博物館ニュース（月刊）、くまはくニュースレター（前期・後期：年2回）、館内学習プログラム集（第2版）等の電子公開 (4)展示会発行物の制作 特別展「世界の大翼竜展」展示図録 企画展「あつまれ！地域の宝もの」展示図録 (5)報告書・目録等 「資料整理目録（歴史）4「井手三郎関係資料」」

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・刊行物、展示会関連発行物、資料整理報告書・目録等の作成し、総合博物館の多彩な活動について情報発信できるよう努めた。
取組による成果と次年度に残った課題	・HPコンテンツ「気軽にやってみよう！自然観察…のススメ」は、月1回程度の更新を継続することができた。この活動を継続していくための体制づくり及び、発信内容の検討が今後の課題である。 ・刊行物（館報、熊本博物館ニュース、くまはくNEWS LETTER）等については、今後も継続的に発行し、紙面とHPで公開していく。 ・博物館活動の大きな柱である「調査研究」、「展示」の成果をまとめた関連発行物や調査報告書・目録についても、可能な限り記録に残していく努力を惜しまないが、そのための十分な時間が必要である。
課題に対する今後の対応	・刊行物等の製作・発行に関しては、一年間の歩みを記録（記憶）として残しながら総合博物館の多種多様な活動について広く周知する側面もあるため、内容の検討と充実を図るとともに、時間の確保に努める。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
⑤	その他の教育・普及活動

館報P40

1 事業の目的・実績

目的	当館の施設機能や学芸員等の専門性を活かし、博物館実習生の受け入れをはじめ教職員を対象とした研修会の実施、その他、職場体験学習の場として中高生等の受け入れにも応じ、求められる資質・能力の育成・向上に寄与する。
実績	(1)博物館実習生受入れ HPにて「2022年度：博物館実習生の受け入れ」を周知し、可能な限りの感染症対策を講じたうえで学芸員資格の取得を目指す県内外の大学生等19人を受け入れた（前年度は26人）。 実習期間：令和4年（2022年）8月24日（水）～8月29日（月）：6日間 (2)高校生対象「インターンシップ（企業実習）」 実習期間：令和4年（2022年）7月5日（火）～7月7日（木）：3日間 さまざまな学芸員の業務体験、博物館での接遇等を学んだ。 (3)中学生対象「ナイス・トライ（職場体験）」 実習期間：令和4年（2022年）9月15日（木）～9月16日（金）：2日間 さまざまな学芸員の業務体験、博物館での接遇等を学んだ。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・各分野の資料を実際に用いながら、分野ごとの実践的な内容を体験してもらえよう、各担当学芸員が工夫して実施した。 （博物館実習はもとより、教職員研修講座・実技研修においても同様）
取組による成果と次年度に残った課題	・実習内容については各分野の実際の業務に近いことを体験してもらい、満足度の高いものとなったようである。
課題に対する今後の対応	・博物館実習や教職員研修講座については、早期に実施要項を示し（定員・実習の評価項目を厳選するなど、評価方法の工夫・改善を図る。 ・中学生のナイス・トライ事業、高校生のインターンシップ受け入れを再開した。担当者を中心に準備体制を整えておく（学校側にも、年度内のできるだけ早い時期に希望日や人数を確定して相談するよう引き続き働きかけていく）。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(4)	収集・保存活動
①	収集・保存

館報P56～59

1 事業の目的・実績

目的	当館の事業展開に必要な資料等の収集を行うとともに、収蔵・保存・管理、収蔵品の補修等を実施し、博物館活動の充実と収蔵品の保存管理に努める。また、収蔵品のデータベース化を進め、一般公開も含め、広く収蔵資料の活用を図る。
実績	(1)資料の収集・保存 ・収蔵実績、利用状況等（館報2022年度報告、P.56～59に記載） (2)収蔵品の収蔵管理 ・展示室、収蔵庫等における環境管理 ・総合的有害生物管理（IPM）の実施 (3)資料修復関係（同報告、P.59に記載） ・歴史・美術工芸分野 収蔵刀剣類の手入れ（年4回） 刀剣類8件の写真撮影 生人形（頭部1点）の修復

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・資料収集については、将来的に展示可能なもの、学術的な価値の高いものを中心に収集を行った。 ・保存修理事業については、優先順位を決め、計画的な修復を進めている。 ・刀剣類の手入れは学芸員立会いのもとで状態確認を行いながら実施。 ・年数振ずつ刀剣類を撮影し、高精細画像データを保管。他館や雑誌への画像提供やSNSでの発信などに活用。 ・修復が完了した生人形は、美術工芸分野に移管し特別収蔵庫にて保管。（美術） ・収蔵管理については、温湿度調査やトラップの害虫計測の結果から効果的な清掃などを実施し、日常的なIPMに取り組みながら各展示室、各収蔵庫の現状把握を行っている。 ・収蔵庫に除湿器を設置し、急激な湿度上昇を抑制、適切な環境を保っている。 ・特別展示室ケース内のガス濃度を測定することで、濃度推移を把握でき効率よく濃度低下を図ることができた。（保存科学）
-------------	---

取組による成果と次年度に残った課題	・限られたスペースと予算の中で、資料の収集・管理・修復等に取り組んだ。 ・年1～2点程度の修復スケジュールでは全点の修理が完了しないため、スケジュール及び修復予算も見直す必要がある。 ・既存の収蔵資料の精査・整理と並行して新規寄贈資料の整理・登録を行っており、作業時間の確保が課題。（美術）
課題に対する今後の対応	・資料の維持管理や修復に必要な予算増額を要求していく。 ・資料のデジタルアーカイブ化が求められる中、公開可能なレベルの写真データを蓄積していかなければならない。そのためにも撮影の委託や撮影機材の更新など、継続して予算要求をしていく必要がある。 ・予算の確保が厳しい中、どのように資料の拡充や保全を維持していくかが博物館運営において重要な課題である。 ・寄贈受入れ時には、寄贈者に対して資料収集・活用方針について、継続して丁寧な（念を押して）説明を行う。 ・従来の方針通り、寄贈受入れ後の資料の取り扱い等については、館の権限により適切に行う。（美術） ・年間を通して、展示室や収蔵庫の清掃など、「被害の未然防止」に向けたIPMの計画を職員に周知し実践を継続する。 ・収蔵庫における除湿器の効率的かつ継続稼働を行うために、排水システムの改善と稼働時間や運営方法について職員間で共通理解を図り、実践化していく。 ・ケース開放の時期や時間を職員に周知し、継続的に行うことで濃度上昇を抑制。 (保存)

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(5)	情報収集・発信
①	情報収集・情報発信

館報P53

1 事業の目的・実績

目的	熊本博物館における展示資料や展示会、講座・イベント情報など、様々な媒体を活用し、広く県内外へ情報発信するとともに他館の活動に関する情報収集も行い、当館の活動に活かしていく。
実績	(1) (再掲) 「熊本博物館ニュース」を毎月発行し、展示会や講座、教室などの案内情報等を小中学校や市関係施設等に配布するとともに、館内でも配布を行い、月毎の情報発信を行った。 (2) (再掲) 「くまはくNEWS LETTER」を年2回発行。展示会・講座・イベント等の開催報告や収蔵資料などの紹介を通して、博物館の多面的な魅力を発信している。 (3) 当館ホームページ、市ホームページ、市政だよりをはじめ、各種のSNS (Facebook、Twitter、YouTube) 等を活用し、情報発信に努めた。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・ イベント情報の提供が中心となる月刊の「博物館ニュース」に加え、年2回発行の「くまはくNEWS LETTER」でイベントの実施報告や博物館活動の紹介、資料紹介・解説などを行い、魅力ある情報の発信に努めた。 ・ 館公式のSNSサイトを運用し、イベント告知だけでなく展示替えや来館者の目に触れにくい学芸員の仕事についても情報発信を行った。
取組による成果と次年度に残った課題	・ 博物館での展示会・教室・講演会などの催しやイベントなどについて、あらゆる媒体を活用しながら県内外への周知を図っていく必要がある。 ・ SNSの活用では、それぞれの利点を活かし、幅広い世代に向けた情報発信に努める。
課題に対する今後の対応	・ 当館独自の広報活動や市政だよりによる周知のほか、報道機関等や生活情報誌への情報提供を行うなど、さらに積極的な広報に努める。 ・ 熊本城周辺施設との連携や熊本国際コンベンション協会等との共同イベントの開催、博物館単体ではなく共同での催しも工夫して企画するなど、様々な方法で博物館の魅力を県内外に発信できるようにする。 ・ SNSについては、Youtube、Twitter、Facebook、Instagramなどの特性を考慮し、内容も工夫しながら広報活動を展開していく。

IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(1)	施設利用

1 事業の目的・実績

館報 無

目的	来館者の安全確保に努め、誰もが安心して気軽に博物館を訪れたり、活用したりすることができるようにするとともに、公開承認施設を目指し、博物館施設管理の徹底を図る。
実績	(1)特別展示室の利用 ・「公開承認施設」を目指し、当館管理のもとで特別展示室1・2・3、常設展示室、収蔵庫等の環境調査等を行い、展示環境の整備を実施。 ・保存科学担当の学芸員を中心に、年間を通したモニタリングにより展示環境の変化に留意し、環境保全及び改善に努めている。 (2)展示室、講堂、実験・工作室の利用 ・感染対策を講じながら、特別展、企画展及び講演会・講座・研修会等で活用。また、小中学生を対象とした館内学習プログラムをはじめ、教職員を対象とした研究会・研修講座等でも活用している。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・常設展示室や特別展示室での来館者の動線や展示環境の変化に注意を払い、適切な環境整備に取り組んだ。 ・展示する資料を保管する場所、作業動線、展示室、ケース内部の環境をなるべく同じにし、資料にストレスをかけないように対策を実施。 ・定期的にケース内のガス濃度を測定し、濃度が基準値を超過しないように留意。また、休館日等にはケース開放を実施し、資料の状況と温湿度の変動を見ながら、ガス濃度を低下させた。 ・講堂及び実験・工作室の使用に際しては、（感染症対策の一環として）講演会やイベント、講座ごとに適切な収容定員を設け、座席の配置や一方通行化など、安全な動線づくりなどにも努めた。
取組による成果と次年度に残った課題	・館内展示環境の変動状況など年間通したモニタリングを実施し、館運営の基礎情報とした（定期的に館内会議で報告し共通理解を図った）。 ・ケース内のガス濃度を低下させるため、ケース開放を職員に周知し、効率的かつ継続的な環境整備に努める必要がある。 ・今後も十分な感染症対策を講じて来館者の安全・安心を確保する。
課題に対する今後の対応	・一昨年度及び昨年度の展示期間における環境データから、温度・湿度・ガス濃度の時期的な変化を把握できている。それらを参考にしながら、突発的な変動にも対応できるよう運用していく。 ・今後も適切な感染症対策を講じたうえで、各展示室等の適切な環境整備や管理、施設の安全かつ適切な運用を図っていく。

IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(2)	来館者へのサービス、安全管理

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	安全で誰もが安心して気持ち良く訪れることができる博物館づくりに取り組む。
実績	(1)エントランスの活用 エントランスには休憩用ソファやイスを配置するとともにミュージアムショップを設置し、来館者のサービス向上に努めた。また、来館者が飲料補給できるようにエントランス区域のみ飲料可として（館内は原則的に飲食不可）、ミュージアムショップと協力しながら飲料水の提供やエリアの周知徹底を図った。 (2)入場券販売方法、個人での来館、団体での来館への対応 受付窓口では、入場券販売機の案内及び減免対象者の案内等、館内へのスムーズな誘導を行うとともに、開催中の展示会や催しなどの案内、団体受付も行い、来館者へのサービス向上に努めた。また、三の丸地区の中核拠点として、熊本城・熊本城ミュージアムわくわく座・博物館の3館共通券の販売や施設案内等を行い、観光案内機能を拡充した。 (3)身体障がい者、高齢者の方等への対応 南側玄関は団体客入場口として運用するとともに、身体障がい者用駐車場も設置し、入場時の利便性を確保している。障がいを持つ方や高齢者等が、いつでも利用できるよう車いす（3台）を配備している。また、ベビーカー（4台）も配備し、来館者サービスの向上を図った。 (4)来館者の誘導、安全管理 新型コロナウイルス感染症防止対策として、入館時の検温、手指消毒等、感染対策を実施し、来館者が安心して観覧できる環境整備を行った。また、警備員1名を常駐させ、来館者の安全管理・安全確保に努めるとともに、不審者の侵入監視、閉館後の施錠確認等の徹底を図った。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・窓口対応や館内案内についてはアウトソーシングにより専門的ノウハウの活用を行い、来館者サービスの向上と効率性の高い対応を図り、キャッシュレス決済の導入等により、来館者への利便性の向上も図っている。 ・総合受付として、一般来館者の受付だけでなく、団体予約の受付も一元化することで一括管理が可能となっている ・ミュージアムショップを設置することで、エントランスの賑わいや博物館の魅力向上を図っている。 ・感染防止対策として、文化庁の補助事業を活用し、来館者の体温を自動検温するサーモカメラや館内の空気環境を浄化する空気清浄機の設置を行っている。 ・来館者の動線を誘導するサイン等の設置により、人の滞留の抑制とソーシャルディスタンスの確保に努めた。
取組による成果と次年度に残った課題	・窓口案内業務をアウトソーシングすることで、旅行者等の多様なニーズにも柔軟に対応することができた。 ・ミュージアムショップ設置は博物館の魅力を向上させるうえで効果があり、今後も来館者にとって魅力ある博物館らしい品揃えを行う必要がある。
課題に対する今後の対応	・来館者案内や入場券の販売対応等に際しては、窓口以外の職員も含め、館全体としてさらに親切で丁寧な対応に努めていく必要がある。 ・ミュージアムショップの商品については、業者と当館職員でアイデアを出し合い、来館者にとって魅力ある品ぞろえを行っていく必要がある。

IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(3)	火災、地震等の自然災害対策

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	万が一の火災や地震等の自然災害から来館者の安全を確保するとともに、展示資料及び収蔵資料の保護・保全を行う。
実績	消防計画に沿った安全管理 ・消防計画に沿った安全管理を実施。火災だけでなく地震対策についても記載している。また、当該計画では自衛消防隊を設置し、隊員それぞれが任務を分担し、緊急時には迅速な対応ができる体制づくりを行っている。 ・消防防訓練を年2回実施。初動対応マニュアル及び施設配置図を視認しやすい場所に設置している。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・消防計画においては火災だけでなく地震災害への対応も記載している。また、塚原歴史民俗資料館の消防計画においても同様の対応を行った。 ・職員全員で避難訓練を行い、来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方について理解を深めた。
取組による成果と次年度に残った課題	・消防計画に基づいた定期的な避難訓練を継続して実施し、有事の際はもとより常日頃から来館者の安全確保に万全を期すよう備えていく必要がある。
課題に対する今後の対応	・来館者の安全確保や収蔵品保全のため、消防署等の助言を受けながら様々なパターンの避難訓練等を定期的 to 実施していく。

IV. 施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(1)	博物館活動への市民参画・協働

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	博物館活動において市民参画・協働による活動を展開し、市民に親しまれる博物館活動を行い、市民と共に発展しくことを目指す。
実績	「くまはくボランティア」の規約に基づき、各学芸員の要請に応じた資料修復等のボランティア活動を行っていただいている。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・学芸班職員が、分野ごとに参加者の興味・関心を高めるようなテーマを設定し、内容も工夫して魅力ある各種講座及び教室等を実施している。 ・通年講座等において、受講生とのつながりを深め、今後、博物館運営の参画・協働パートナーとなり得る人材の養成に努めている。
取組による成果と次年度に残った課題	・各分野で一定の専門性をもち、継続して活躍いただけるよう、博物館としても人材育成やグループの活動支援に努めていく必要がある。
課題に対する今後の対応	・今後も魅力的な講座や教室等を開催し、市民とのつながりを一層深めるとともに、参加者の専門的な知識や技能の向上を図る。 ・市民参画・協働の姿を具現化できる体制整備のため、活動の種類や内容などを検討していく。

IV. 施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(2)	熊本城とその周辺関連施設との連携、他の博物館との連携

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	熊本城周辺の文化施設及び観光部署が連携し、熊本城をはじめとした上質で伝統ある「熊本の歴史・文化の魅力や価値」を積極的に発信し、国内外の観光客や教育旅行の誘致・拡大につなげる。また、県内外の博物館との連携やネットワークの構築を図り、質の高い博物館活動の実現を目指す。
実績	(1)熊本城周辺美術館・博物館施設との連携 熊本県伝統工芸館、熊本県立美術館、熊本博物館、熊本市現代美術館、熊本城総合事務所、熊本城ミュージアムわくわく座及び熊本市観光政策課、熊本県文化課による連携会議に平成29年度より参加。日頃よりメール等により情報共有を定期的に行い、引き続き関連施設の一体的な連携強化を図っている。 (2) 熊本城域活性化協議会 熊本城を中心に、観光を軸とした活性化協議会に令和3年度から本格的に参画。観光施設としての視点で、熊本城域の回遊性を高め来館者の誘客につなげることや、観光イベントに合わせた博物館の展示やイベント開催など他部門との連携に取り組んだ。 (3) 熊本県内博物館、美術館、記念館等との連携 熊本県博物館連絡協議会に加盟する各施設の新型コロナウイルス感染症の対応状況や様々な情報について、協議会事務局（熊本県博物館ネットワークセンター）を中心とした検討及び情報の共有を行った。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・熊本城周辺の関連施設や行政の観光部署等と展覧会・催事等の情報共有を行い、連携した催事や広報を行うことによる相乗効果を狙った。 ・それぞれの事業が一過性のものにならず、継続した事業として定着・発展するよう、定期的に情報の共有を行っている。
-------------	--

取組による成果と次年度に残った課題	・熊本城及びその周辺関連施設において感染症対策に関する情報共有を図り、施設毎の環境の違いなどで各々の対応となる中で、日々変化する状況への対応への参考とすることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響の中で、今後も継続して相互に連携を図り、協働による取組を強化するためには、連携会議等の新しい活動の形を検討する必要がある。
課題に対する今後の対応	・インターネットを活用した遠隔会議や、メール等による情報交換など、新しい生活様式に則した会議や情報交換を引き続き実施する。 ・各施設や観光振興部署等との定期的な情報の共有を図り、より効果的な広報やイベント等を計画的に実施していく